

高校サッカーとJリーグユースにおけるサッカー環境の比較

The comparison of the high school football team and the J-league youth team

1k10c035-1 石川拓

主査 作野誠一先生

副査 堀野博幸先生

【目的】

本研究の目的は、高校サッカーとJリーグユースと主に育成が分化されている現在の高校生年代のサッカー環境において、それぞれのどのような要因によって満足度PL “をもたらされているのか、どのような環境が理想なのかを明らかにする。また、この研究を通じて今後の日本サッカー界の一助となる示唆を得たい。

【方法】

文献や先行研究の調査による現状把握を行う。高校サッカー、Jリーグユースの満足度における調査に関しては、早稲田大学ア式蹴球部の部員を対象に、人的要因、物的要因、金銭的要因、環境的要因、情報的要因、達成的要因と分類しアンケートによる調査を行い、分析には spss ver. 20 を用いて t 検定を行った。また、アンケート調査の自由記述欄項目では、アンケート調査における自由記述欄を「人、もの、金銭、環境、情報、達成」に分類し、プラスな意見には○、マイナスな意見には▲という形式で表にまとめた。

【結果】

アンケート項目に関しては、因子得点による t 検定を行った結果、物因子、金銭因子、環境因子、情報因子に有意差が見られた。また、自由記述欄分析では「人」「物」「金銭」「環境」に t 検定の結果を裏付ける回答や高校サッカー、Jユースクラブの特徴が見られた。

		mean	F値	p
人	高校	8.07	1.126	
	Jユース	8.97		
物	高校	4.62	6.920	***
	Jユース	8.87		
金銭	高校	4.69	0.680	**
	Jユース	6.55		
環境	高校	4.38	13.369	***
	Jユース	8.55		
情報	高校	4.55	12.117	***
	Jユース	7.74		
達成	高校	5.66	2.810	
	Jユース	6.1		

** : p < 0.01 *** : p < 0.001

【考察・まとめ】

今回の研究において、高校サッカー部、Jユースクラブの歴史や現状を調べる事や、出身者を対象とした調査を行ったことで、実態が把握できた。さらに調査結果を因子ごとに考えていくことで、本研究では6分類したうちの「人」「物」「金銭」「環境」に多くの特徴がみられた。

	高校サッカー	Jユースクラブ
人	仲間に対する満足度が高い 多くの時間を共にしていることが満足度に影響している	指導者に対する満足度が高い プロ選手から多くの刺激を受けている
物	チーム管理の用具に対する満足度は高い 練習着、シューズといった+αの支給は行われていない	ほとんどの選手が満足している 練習着、シューズの支給に満足
金銭	不満を感じている選手は少ない	練習後の食事提供 遠征費などの免除
環境	学校とグラウンドの隣接による満足 劣悪な環境によって精神面の強化	グラウンドの質が高い サッカーに打ち込める環境
情報	特に特徴は見られず	サッカーに関する情報交換が多い
達成	ほとんどの選手が達成感、やりがいを感じている	ほとんどの選手が達成感やりがいを感じている

また、本研究で明らかになった課題を以下の取り組みを高校サッカー部においては、

- (1) 指導者の育成
- (2) 物品提供
- (3) 金銭面の支援
- (4) 練習環境の向上

Jリーグユースにおいては、

- (1) 仲間意識の向上
- (2) 練習時間の配慮
- (3) 高校との連携

を行うことで、より満足度の高い環境を整えることができるのではないかと考える。

ここで記したいいくつかの方策は、努力次第で実現可能だと思う。何より大事なのは、日本サッカーや育成年代の発展の為にひと肌脱ごうとする人が出てくることである。誰かがやってくれるだろうとか、今ある体制を無理して変える必要はないという考えを持っている人が多いが、この論文を読んで一人でも何かをしようと動いてくれる人がいてくれたら幸いである。